

特集

3・11東日本大震災

M9の大地震、30メートルを
超える大津波、そして事故評
価で最悪の「レベル7」に至
った原発事故
2万5千人を超える死者・行
方不明者
日本歴史上最大の災害が東日
本を襲った

(碑文谷 創)

- 1 3・11に起こったこと…14
- 2 死者を想う―被災ということ…17
- 3 災害支援はどう行われたか…19
- 4 福島からの報告 内藤忠…24

1 3・11に起こったこと

M9の巨大地震発生

3月11日14時46分頃
巨大地震が発生

この地震は、宮城県栗原市で最大震度7、東北各地では震度6以上を軒並み記録。東京でも震度5強で、ほとんどの交通手段が停止し「帰宅困難者」を生み、95年に死者・行方不明6千人以上という大惨事に見舞われた関西の神戸においても揺れを感じる、という巨大地震でした。

三陸沖から茨城沖まで40キロ以上にわたる広範囲な震源域で発生しました。

地震研究者たちが、これまで三陸沖、宮城沖、茨城沖と分けて観測していた3つの震源域が連動、青森から首都圏に至る東日本全域を、振幅がゆっくりで大きく揺らす地震。各地域に多数の家屋倒壊、道路の破壊、液状化現象を引き

起こしました。

日本で観測史上最大のマグニチュード(M)9・0を記録。その後の余震も大きく、今なお各地で頻発しています。

30メートル超の大津波

その地震の衝撃に呆然としていた15時過ぎ、岩手、宮城、福島のパ洋洋岸の市町村を大津波が襲い、沿岸各地の平地の商店街、住宅地を完膚なきまでに破壊しました。

東京大学地震研究所や東北大学の研究チームの調査によると、この大津波は30メートル超を5カ所以上で記録。これまでに日本史上最大と言われた1896年に発生した明治三陸大津波の30メートル超2カ所という記録を塗り替えました。明治三陸大津波では北海道から東北地方で約2万2千人が死亡したと記録されています。

今回の大津波、岩手県大船渡市三陸町綾里地区では38・2メートルを記録。この大津波が時速40キロという高速で、沿岸に設けられた8メートル超す防波壁も乗り越え、なぎ倒し、平地3〜5メートルまで浸





陸前高田市 (P13~15、18、20の写真はIFSA提供)

入しました。

家屋、車、道路標識といったあらゆる物を呑み込み、大勢の人間をさらっていききました。高台に逃げて生命を長らえた人がいるものの、多くの人が家屋ごと、車ごと波にさらわれたのです。

宮城県の名取川、北上川は逆流、仙台空港にも津波は浸入、人や物をなぎ倒しました。宮城県の県境の気仙沼港では炎上した瓦礫ごと津波が押し寄せ、火災が長く続きました。岩手県陸前高田市は、市街地が70%ほど地盤沈下。今までの街には住むことが困難な状況が引き起こされています。

被害状況

2011年4月30日現在、警察庁発表によれば、3・11とその後の余震での被害は次のようになっています。

死者1万4662人

(宮城県8819人、岩手県4293人、福島県1486人、茨城県23人、千葉県19人、その他北海道から神奈川県まで及んでいる)

行方不明者1万1019人 (宮城県6524人、岩手

県3405人、福島県1086人、その他青森県から千葉県まで。この行方不明は家族から届出があったもので推定を含む)

負傷者5278人

建物被害は、全壊7万7353戸を含む36万6731戸。

道路損壊3741カ所、橋梁被害71カ所、山崖崩れ184カ所、堤防決壊4カ所、鉄軌道被害26カ所。

今回の大震災は、全長400~500km、東日本の太平洋沿岸のみならず、奥羽山脈に至る内陸部においても甚大な被害を発生させたという点で、日本歴史上類を見ない大惨事でした。

また、他の震災との違いは、行方不明者数が多いこと。初期は瓦礫の撤去で発見の増加が期待されたのですが、多くが発見されていません。おそらく多くが海に流されたと思われる。海上自衛隊、米軍、海上保安庁が約1週間、船とヘリコプター、潜水と手を尽くして沿岸を探索しましたが、発見された遺体は数百という単位に留まりました。

これまで日本の歴史上最大と言われたのが869年の貞観地震で、M8.3~8.6と推定され、東北太平洋沿岸地域の当時1千人以上が死亡したと記録されています。今回の震災が「1千年に1回」と言われるのはこの貞観地震以来、という意味です。

東京電力原発事故

今回の大震災で東京電力福島第一原子力発電所を襲った津波は14〜15メートルの高さでした。この津波により非常用電源等の重要な設備が流出。この結果の重大事故でした。地震、津波に対する備えが明らかに不十分だったために引き起こされた事故で、多くの専門家から

「人災」と指摘されています。標高約10メートルの敷地から4〜5メートルの高さまで海水が達し、非常用ディーゼル発電機が機器の浸水で停止。電源が確保できず

に原子炉を冷やす装置を動かさず、核燃料の一部が溶け出すなどの被害が出ました。タービン建屋にも海水が入り、復旧作業の妨げになっています。

当初は事故発生が3月11日の16時46分頃と言われましたが、その前の15時半頃ですに取り返しのことかない事態になっていたことがわかり、重要情報の公開の遅さが指摘されました。

原子力発電所とは、原子炉を利用して、核燃料であるウランやプルトニウムが核分裂反応をする際に発生する熱で水を沸騰させ、水蒸気で蒸気タービンを動かして発電する発電

所のことを言います（出典・ウィキペディア）。原発事故でこれまで最大のもは、現在のウクライナ（旧ソ連）にあるチェルノブイリ原発事故です。1986

年、4号炉は炉心溶融（メルトダウン）の後に爆発。広島の原爆の400倍という放射能汚染が広範囲に拡がりました。現在、4号炉はコンクリートで封じられ石棺状態となっています。その後の調査では作業員が事故後を含めて5万人以上が死亡、約280万人が甲状腺がん罹患（りかん）していて、現在もなお30キロ圏内の立ち入りが制限されています。この事故が、国際的な基準に基づく原発事故の評価で最悪の「レベル7」と判定されています。そして福島も、放出放射能はチェルノブイリの10分の1と東電は言っていますが、同じレベル7と判定されています。1979年に米国で起きたスリーマイル島原発事故はレベル5でした。

今回の福島では20キロ圏内が立ち入り禁止警戒区域とされ、福島県を中心とした農産物や海産物の汚染と風評被害

が拡大。事故の収束の見込みはまだ立っていません。東電関係作業員の被爆や過酷な作業条件も危惧されています。3月末には、20キロ圏内には約1千体の遺体が収容されずに残っていると推定されました。ここでも、福島県警や警視庁機動隊が20キロ圏内の遺体捜索を防護服着用で行い、続いて10キロ圏内に進みました。その後の20キロ圏内の遺体収集作業は自衛隊が約2500人体制で実施。1日約40体ずつ遺体が相馬市の遺体収容・検案所に移されています。

この原発事故により日本滞在外国人の帰国が急増、観光客が激減するなど全国的に影響が及んでいます。原発周辺地区では10年単位で今後危険な状態が継続すると推測されています。

また、この事故で「原子力平和利用」である原発の「安全神話」が崩れ、国内のみならず世界



東京電力福島第一原発4号機（P16の写真は東電のホームページより）



放水口サンプリング建屋火災発生時



3号機



1号機

各国の新規開発計画の見直しを招いています。原発のある福島県では、地震、津波、原発農漁業への放射能の大きな影響で「四重苦に陥っている」と地元の人々は嘆息している状況にあります。